

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(2月26日～3月4日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。2月26日から3月4日までに5562件の検査がおこなわれました。基準を超えたものはありませんでした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(2月26日～3月4日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

| | 都道府県名 | 検査数 | 基準超 合計 | 今週基準を 超えたもの | | 都道府県名 | 検査数 | 基準超 合憲 | 今週基準を 超えたもの |
|-------------|---------|------|-----------|----------------|-------------|---------|-----|-----------|----------------|
| 福島 県 | 農産物 | 8 | 0 | — | 栃 木 県 | 農産物 | 17 | 0 | — |
| | 畜産物 | 234 | 0 | — | | 畜産物 | 362 | 0 | — |
| | 水産物 | 144 | 0 | — | | 水産物 | 6 | 0 | — |
| | 牛乳乳児用食品 | 8 | 0 | — | | 牛乳乳児用食品 | 1 | 0 | — |
| | 野生鳥獣肉 | 0 | 0 | — | | 野生鳥獣肉 | 0 | 0 | — |
| | 飲料水、その他 | 32 | 0 | — | | 飲料水、その他 | 2 | 0 | — |
| 宮 城 県 | 農産物 | 46 | 0 | — | 群 馬 県 | 農産物 | 12 | 0 | — |
| | 畜産物 | 1875 | 0 | — | | 畜産物 | 411 | 0 | — |
| | 水産物 | 56 | 0 | — | | 水産物 | 6 | 0 | — |
| | 牛乳乳児用食品 | 5 | 0 | — | | 牛乳乳児用食品 | 1 | 0 | — |
| | 野生鳥獣肉 | 12 | 0 | — | | 野生鳥獣肉 | 0 | 0 | — |
| | 飲料水、その他 | 0 | 0 | — | | 飲料水、その他 | 0 | 0 | — |
| 茨 城 県 | 農産物 | 12 | 0 | — | 千 葉 県 | 農産物 | 11 | 0 | — |
| | 畜産物 | 384 | 0 | — | | 畜産物 | 53 | 0 | — |
| | 水産物 | 1 | 0 | — | | 水産物 | 16 | 0 | — |
| | 牛乳乳児用食品 | 0 | 0 | — | | 牛乳乳児用食品 | 3 | 0 | — |
| | 野生鳥獣肉 | 0 | 0 | — | | 野生鳥獣肉 | 0 | 0 | — |
| | 飲料水、その他 | 0 | 0 | — | | 飲料水、その他 | 0 | 0 | — |

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

| 検査結果判明日 | 検出限界以下となった割合 | 基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合 | 基準を超えた割合 |
|-------------|--------------|---------------------------|----------|
| 2013年3月26日 | 52.6% | 41.4% | 5.9% |
| 2017年 7月23日 | 98.3% | 2.7% | 0.0% |
| 2017年 8月 6日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年 8月13日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年 8月27日 | 98.8% | 1.2% | 0.0% |
| 2017年 9月 3日 | 97.8% | 2.2% | 0.0% |
| 2017年 9月10日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年 9月17日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年 9月24日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年10月 1日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年10月 8日 | 99.3% | 0.7% | 0.0% |

| | | | |
|------------------|----------------|---------------|---------------|
| 2017年10月15日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年10月22日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年10月29日 | 99.3% | 0.7% | 0.0% |
| 2017年11月 5日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年11月12日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2017年11月19日 | 99.3% | 0.7% | 0.0% |
| 2017年11月26日 | 98.9% | 1.1% | 0.0% |
| 2017年12月 3日 | 97.6% | 2.4% | 0.0% |
| 2017年12月10日 | 99.0% | 1.0% | 0.0% |
| 2017年12月17日 | 99.6% | 0.4% | 0.0% |
| 2017年12月24日 | 99.1% | 0.9% | 0.0% |
| 2018年 1月21日 | 99.5% | 0.5% | 0.0% |
| 2018年 1月28日 | 99.4% | 0.6% | 0.0% |
| 2018年 2月 4日 | 98.9% | 1.1% | 0.0% |
| 2018年 2月12日 | 97.9% | 2.1% | 0.0% |
| 2018年 2月18日 | 100% | 0.0% | 0.0% |
| 2018年 2月25日 | 98.9% | 1.1% | 0.0% |
| 2018年 3月 4日 | 99.3% | 0.7% | 0.0% |
| 2016年6月平均 | (95.0%) | (5.0%) | (0.0%) |

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで141週連続(約3年)となります。福島県の142検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類はいわき市のムラソイ(10ベクレル/キログラム)でした。

**(2)検査について基準を超えたものについて
ありませんでした。**

(3)京都の空間線量(2月26日～3月4日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.038～0.040 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.045～0.048 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.10～0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.13～0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1くらいになってきました。しかし0.1 マイクロシーベルト/1時間を下回るどころまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1)福島の食の魅力を知って！ 販路拡大へ移動販売(NHK NEWS WEBより)

東日本大震災からまもなく7年がたちますが、福島県産の食品の魅力を首都圏の人たちに広く知ってもらおうという取り組みが続いています。

福島県郡山市にある会社「ビックメイツ」は、福島県産の農産物などの販路拡大につなげようと、首都圏各地を回って移動販売を行っています。5日は東京・杉並区のJR阿佐ヶ谷駅の構内で、葉もの野菜やいちごなどを販売しました。

販売を担当した牧野剛さんは、震災で天栄村の自宅が壊れ、親と行っていた農業を続けられなくなったということです。去年春から移動販売を担当し、郡山市からはほぼ毎週のように首都圏に来ているということで、5日は買い物客に野菜の料理方法などを説明しながら、福島の農産物の魅力をアピールしていました。客の女性は「震災直後は福島の食べ物に多少抵抗がありましたが、今は福島の人たちを応援したいと思っています。大型店舗と違って温かい感じがします」と話していました。

牧野さんは「福島から発信するだけでなく、東京に出向いてお客さんとふれ合うことが大切だと思います。これからも農産物の魅力を伝え続けたいです」と話していました。

福島産食品への都民の意識は

三菱総合研究所は福島県産の食品に対する東京都民の意識を探ろうと、去年8月、男女1000人を対象にインターネットを通じてアンケート調査を行いました。

この中で、福島県産の食品についての考えを、「自分が食べる場合」という前提で尋ねたところ、「積極的に食べる」と答えた人が15.1%、「福島県産かどうかは気にしない」が58.6%、「放射線が気になるのでためらう」が26.3%でした。

質問の前提を「家族や子どもが食べる場合」としたところ、全体的に消極的な傾向が強まり、「積極的に勧める」が11.9%、「福島県産かどうかは気にしない」が53.1%、「放射線が気になるのでためらう」が35%でした。

福島県産の食品に対する意識は震災後、福島を訪れた回数によって変化し、「訪れたことがない」または「1回訪れた」と答えた人と比べ、「2回以上訪れた」人では、食べたり勧めたりすることをためらう回答が大幅に減り、積極的な姿勢が強まっていました。

主な農産物 都内への出荷量は震災前と同水準に

福島県によりますと、きゅうりや桃など、主な農産物の東京都内への出荷量は震災前とほぼ同じ水準に戻ったということです。

しかし、重さ1キログラム当たりの単価を見てみると、全国平均を下回るものが目立ち、価格が抑えられる傾向にあるということです。

これについて福島県は「さまざまな検査などを通じて食の安全は確保しているが、震災直後のイメージが残り、消費者の安心につながっていないのではないかと懸念。実際に食べてもらうことで、そうしたイメージを払拭（ふっしょく）したい」と話しています。

以上